

社会基盤の新しい可能性を実現する景観デザイン／都市デザイン

Landscape and Urban Design for Creating New Value of Infrastructure

キーワード：景観デザイン，都市デザイン / keywords: landscape design, urban design, theory of landscape

星野 裕司 准教授 博士（工） / Yuji HOSHINO Asoc.Prof. Ph.D(Eng.)

環境共生工学専攻 社会環境マネジメント講座 / Department of Environmental Management and Planning

E-mail: hoshino@kumamoto-u.ac.jp URL: <http://www.civil.kumamoto-u.ac.jp/keikan/>



●土木施設の特徴を魅力的に引き出す景観デザイン

自然を相手にする土木施設は，建築やプロダクトなどとは違った魅力的な特徴を有している一方，土木施設が有する防災などの機能は，暮らしを支えている重要性に比べて，人々が実感しづらいものとなっている。このような特徴や機能を魅力的に引き出し，人々と自然をつなぐインターフェースをつくることが景観デザインである。

●街の中にさまざまな居場所をつくる都市デザイン

持続可能な都市空間を実現するためには，歩きやすい街路，たたずみやすい広場など，人々の居場所が豊富にあることが重要である。都市空間における人のアクティビティに対して，丁寧な観察・記述による研究的アプローチと具体的なデザイン提案による実践的アプローチをお互いにフィードバックさせながら，有意義な都市デザインを模索する。

●風景体験の意味を考察する風景論的探究

日々，意識的・無意識的にかかわらず，体験されている風景は，人々の暮らし方や心のありようを育む重要な背景となっている。文学，芸術，哲学，精神医学など，様々な知見を援用しながら風景体験の意味を考察し学際的な風景論の構築を探究する。原論的考察は，デザインの実践に奥行きを与え，風景の可能性を広げるものとなる。

●社会基盤施設の実現プロセスに関する歴史的考察

優れた社会基盤施設には，その実現プロセスにおいて，技術的な革新や新たな組み合わせ方，あるいは困難な合意形成の達成など，各事例特有のパラダイムシフト，イノベーションが存在する。それらの試行錯誤，工夫を資料から丁寧に読み解き，現在にも活用できる知恵としてストックすることは，新しい実践に対して非常に重要である。



曾木の滝分水路（鹿児島県伊佐市）
2012年グッドデザイン・サステナブルデザイン賞



三角駅前広場計画（熊本県宇城市）